

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

2. 広域回遊資源：日本海北ブロック 第Ⅱ期 ムシガレイ (抄 録)

伊 藤 秀 明

はじめに

本調査は平成6～8年度に天然資源調査として実施し、平成8年度においては管理推進指針を策定したところである。平成9年度はムシガレイの資源特性を明らかにするため、管理計画策定調査として調査を継続実施した。

内 容

漁獲統計調査

青森県日本海域における漁獲量は前年比5.5トン減の12.6トンで、主たる漁協である大戸瀬漁協の漁獲減が著しかった。漁期は例年同様に2～5月であるが、7月以降12月まででは例年になく漁獲があった。主たる漁法は定置網、刺網漁業であるが、定置網での漁獲減が著しかった。漁獲金額は21,761千円で前年比13,000千円減であった。

秋田県における漁獲量は前年比2.6トン増の24.1トンで、底曳網漁業が主体であり、特に解禁後の9月以降が例年になく多く漁獲されていた。

生物測定調査

大戸瀬漁協で漁獲されたムシガレイの全長組成は、メスでは25～47cm、オスでは24～33cmで、大型個体はメスが多く小型のものはオスが多い傾向が見られた。年齢組成については3令、4令、5令魚主体であり、大型個体の減少が推察された。

市場調査

大戸瀬漁協における「小カレイ」に混入しているムシガレイの全長組成は18～27cmで、その混入率は48.7%であった。また、これまで漁獲実態の少なかった2令魚がかなりの割合で混入しており資源の添加が推察された。

標識放流調査

1997年5月に深浦町北金ヶ沢沖で放流したムシガレイ144尾のうち3尾が再捕され、そのうち秋田県八森沖で1尾が再捕された。